

(様式第4号)

## 上田市障害者施策審議会 会議概要

1 審議会名	上田市障害者施策審議会
2 日時	令和8年3月16日 午後1時30分から15時00分まで
3 会場	上田市役所本庁舎 会議室202・203
4 出席者	飯島委員、松山委員、大久保委員、遠藤(謙)委員、遠藤(良)委員、清水委員、斉藤委員、高木委員、竹花委員、中島委員、中村委員、橋詰委員
5 市側出席者	長田福祉部長、上田障がい者支援課長、山崎丸子市民サービス課長、竹花武石市民サービス課長、原課長補佐兼障がい者支援担当係長、大木障がい者支援担当係長兼庶務係長、柳沢主事
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者 0人、記者 0人	
8 会議概要作成年月日	令和8年4月3日

### 協議事項等

#### 1 開 会 (障がい者支援課長)

#### 2 福祉部長あいさつ

#### 3 協議事項 (司 会) 会長

(1) 障がい者関係団体懇談会の報告について (資料に基づき事務局より報告)

(委 員) 障がい者関係団体懇談会を二年に分けて行った経緯を教えてください。

(事務局) 1時間半という短い時間の中で、一度に全ての団体の意見を伺うことが難しく、二つに分けることで、皆様の意見をじっくりお聞きしたいという経緯がある。分け方については、障がいの種別などを考慮して検討したい。

(委 員) 参加できるのは2年に1度という認識でよいか。市の担当者と懇談できる貴重な機会。

(事務局) 令和8年度は計画策定の年であるため、全ての団体から意見を伺えるようにしたい。ただ、やり方については検討中。

(委 員) 懇談会の中でも日常生活用具の話題が出ているが、紙おむつが高くなっているため、補助の限度額があがって買いやすくなると嬉しい。

(事務局) 日常生活用具についてはいろいろと要望がある。すべてに対応することは困難だが、必要性などは検討していきたい。

(委 員) 福祉避難所の設置に対する話題もあったが、2019年の台風の時の避難所開設あり。市では振り返りなどがあったか。

(事務局) 2019年台風の時の振り返りを市全体で行っているが、福祉避難所の運営がどうだったか、福祉的な支援が必要な避難者の動向等の分析はできていないのが現状。一時避難所を通さずに福祉避難所に避難できないのかという議論もあるが、上田市に継続してアドバイスができる防災アドバイザーがいないため、進んでいないのが現状。

(委 員) 2019年の台風の時、長野大学も避難所となり、本来は体育館だけが避難所であったが、学生たちの判断で必要な方には他の施設も解放した経過があった。防災についても大学と連携して進めていけるとよい。

(会 長) 総合支援センターでも在宅の障害者の方で避難できなかった方がどうだったのかを振り返りを行った。本人の支援を受け取る力も大事で、平時からの関わりが必要。全国的にも取り組みが始まっている。

(2) 手話施策推進法について (資料に基づき事務局より説明)

質問なし

(3) 市民ニーズ調査の結果について (資料に基づき事務局より説明)

(委 員) 設問によって更に障がい種別に統計をとるなど分析を進めてほしい。

(委員) アンケートを作成する段階でお話する内容だが、障がいのある成人の子を持つ親に対してもアンケートを行うと色々な意見を得られるのではないか。

(委員) 協議事項(1)の話であった身体障害者手帳所持者の数が減少しているということにはどのような理由があるのか。

(事務局) 身体障害者手帳を所持している方の半数以上が65歳以上の方で、亡くなられている方が新規申請者より多いことが理由だと考えられる。

(委員) 成年後見制度の認知度の質問で、名称を知っている方は多いが、内容まで理解している方が少なく、更なる周知に努めてほしい。

(事務局) 周知は行っているが、使い勝手の悪い制度との印象もあるか。国の方で成年後見制度を改正する動きが出ており、もう少し使いやすい制度になっていく可能性あり。

(会長) 他に質問がなければ、今回で今年度最後の審議会になるので、委員の皆様から一言ずつお願いしたい。

(委員) ハローワークという立場のため、アンケートの就労の項目に注目している。障害者雇用の法定雇用率が上がってきているが、これからも障がいを持つ方が働くことができる環境を整えたい。ここ数年精神障がいを持つ方の求職登録が増えており、目に見えにくい障がいのため、障がい特性を理解してもらうことが重要だと考える。

(委員) 社協では先ほども話題のあった災害時のボランティアセンターを含め、幅広い支援を行っている。成年後見制度についても支援を行っているが、アンケートでも認知度が低く、使いにくい制度でもあるか。障害者雇用率を引きあげに向けて取り組んでいるが、資格が必要なところもあり、なかなかハードルが高いが、引き続き取り組んでいきたい。

(委員) アンケートについては、障害別で集計してもらうともう少し見えてくるものがあるか。せっかく障がい者本人にアンケートをとったので、ご本人たちの思いを中心にした計画を策定してほしい。

(委員) アンケートで広報、周知に関することがあり、知っている割合が低い。繰り返し繰り返し周知を行うことで定着していくのではないか。

(委員) 成年後見制度などまだまだ先のことかと思いき、都合がつかず勉強会に参加することを諦めてしまうことがあるので、今後そのような機会があれば積極的に参加していきたい。

(委員) 家庭を持つという夢があるが、パート勤務であることで生活に自信を持つことができなと感じている協会入会者の声もあるので、障がいを持つ方が正社員で雇用されるような環境が整備されていくとよいと思う。

(委員) 物価高騰などにより、障がい者の中でも生活困窮者が一定数いる。アンケート結果をもとに、生活に困っている方たちが豊かになるような計画の策定をしてほしい。令和7年度から義務化された地域連携推進会議については、いろいろな方に参加してもらった。今まで知ってもらう機会が無かった中で、地域とのつながりがもて、よいきっかけになったと思う。

(委員) 障がい者の相談支援や社会活動、災害時の対応など、ひとり一人のニーズに合わせた計画策定をしてほしい。福祉避難所について、行政だけでは難しいところがあるため、地域の皆様・専門家の力をお借りして進めてほしい。共生社会への取組みが進むといい。

(委員) 障がい者本人への「あなたは現在何らかの障がい福祉サービスを利用していますか」という質問で、利用していないと回答した方の理由を知りたい。希望があっても受けられないという方、専門性の課題か、地域性の課題か。在学中に実習や体験利用を通してより希望にあった利用ができるとよい。

(委員) 精神障がいを持つ方で、手帳を取得していない方もいるため、もっと多くの方が精神障がいでも悩んでいるのではないか。障がい者本人の親が亡くなった後の相談について、月に一度開催するなどの機会があればよいと思う。福祉や財産のことなど、総合的に相談に乗ってもらえるとよい。

(会長) 障がい児の保護者向けのアンケートで、「インクルーシブ教育」は新しい言葉で、インクルーシブ教育について、なぜどちらともいえないと考えているのか紐解くことが重要ではないのか。また、「お子さんの就学時の放課後や長期休みの過ごし方として、どのような過ごし方ができると良いと思いますか」という質問の回答で、児童館や放課後児童クラブと障がい児向けの福祉サービスを併用したいと答えた方がいるがなぜなのか分析してほしい。

「障がいのある方が地域で暮らしていくためには、市としてどのような取組に力をいれる必要があると思いますか」という質問の回答について、障がい者本人と一般の方の考え方に乖離がある。インクルーシブ教育を進めることはどういうことなのかを議論していきたい。

子どもたちの教育環境や放課後対策など障害福祉計画の基本となるところを、今回の基本計画で策定してほしい。

(事務局) アンケートでは自由記載の中にもそれぞれの思いがたくさん詰まっていた。計画策定に活用していきたい。また、今年度末で委員の任期が終わるが、今後もそれぞれのお立場で障がい者施策の推進について御協力をお願いしたい。

9 閉 会 (障がい者支援課長)